

# 飛 騰

平成8年2月  
第16号



海 援 隊 旗

## 龍馬がご縁で

高知県立坂本龍馬記念館  
館長 小 椋 克 己

この3月、長崎県五島列島の有川町が「ワイル・ウエフ号舵棒のモニュメント」を贈って下さることになりました。坂本龍馬率いる亀山社中の持ち船ワイルウエフ号は、慶応2年(1864)5月鹿児島へ向かう途中時化に遭い、この有川町潮合崎まで流されて転覆沈没し、池内蔵太ら優秀な仲間を失いました。

鹿児島にいた龍馬は、直ちに現地に急行し、地元の協力を謝するとともに、慰霊の碑を建てました。130年前の悲しい出来事で、有川町と土佐のご縁ができたわけですが、有川町では、今も同町に残るワイルウエフ号の舵棒をモニュメントとして複製し、龍馬記念館に設置して下さることになりました。ありがたいことです。

このように、昨年から今年にかけて、県外のおちこちと記念館とのご縁が拓けました。

昨年10月から年末へかけて企画した「龍馬の夢『蝦夷地開拓』展」もその一つで、龍馬が抱き続けた北海道開拓の夢と、龍馬の甥坂本直寛の入植でその夢が現実となった、当時の浦臼町での暮らし、浦臼龍馬会など地元の方の龍馬への思いなどをパネルや資料でとり上げました。

今から百年前の明治28年に武市安哉らが創始し、直寛がその後を継いだ浦臼の「聖園教会と農場」は今もその歴史を重ねていますが、そこで作られた「浦臼ワイン」を龍馬会の方が提供して下さり、ラベルの「龍馬の肖像」と「夢はてしなく」のことばが人目を集めていました。

期間中、浦臼町の山本町長や、池端精一国土庁長官も立ち寄られ、池端長官は「この地区が選挙区だね」と懐かしげに見ておられました。

また、坂本直寛が社長を務めた「北光社」の所在地北海道北見市での物産展には、上記のパネルも仲間入りして「北海道と龍馬」をPRしました。現代に及ぶ龍馬のご縁に感謝です。



ワイルウエフ号遭難地の近くにある「龍馬ゆかりの広場」(長崎県有川町)

# “龍馬倶楽部” 本年4月設立に向けて!!

龍馬倶楽部設立準備会 矢野 貴大

新年明けましておめでとうございます。

龍馬を愛する全国のファンの皆さまには、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

平成3年11月に、龍馬生誕150年を記念して、我々土佐の青年組織が結集して建設した坂本龍馬記念館が桂浜の山頂に完成して、はや5年が経過しようとしています。記念館では、小椋館長以下、職員の皆様の献身的な努力によって次第に内容も充実し、手造り感溢れる記念館に変身していますし、昨年度の1日平均入館者数も390名以上と、常に変化し成長してやまなかった龍馬の生涯を体現するののかのような記念館の成長ぶりを嬉しく感じている次第です。

さて我々青年組織の先輩たちは、坂本龍馬記念館を龍馬生誕150年記念事業として足掛け7年におよぶ運動により完成しました。この記念館は10億円という全国に例をみない大規模な青年による募金活動により完成したものであり、特に土佐の青年の郷土と龍馬を思う熱い心とエネルギーを表すシンボルとして誇るべきものがあります。

またこの建設運動は土佐の青年による地域おこし事業でもありました。そしてその過程で、県内外の青年たちに強いインパクトを与え、各地の地域おこし活動に活力をもたらすと同時に、全国の龍馬ファンとの交流の輪を広げました。これもこの運動の生み出した貴重な宝の一つでした。

坂本龍馬記念館では、これらの精神と成果を受け継ぎ、全国の龍馬ファンへの情報発信と文化交流機能を強化しようと、日々努力を重ねてこ

られました。

我々は、おりしも坂本龍馬生誕160年に当たる昨年、我々の組織の先輩達が記念館建設に込めた熱い思いを末代にまで語り継ぎ、青年組織の活力源として活かし続けるために、又、記念館の活動と更なる発展を支援することを通じて、より多くの人々と交流を深め、英知を育て合うとともに、次代を担う有為の人材の育成に資するべく、広く全国に発信し、青年有志の新たな活力にしようではないかと考えました。

皆でつくった土佐青年のシンボル、坂本龍馬記念館を土佐の青年の手で育てよう。そして、龍馬と記念館を介して、土佐の青年の熱いメッセージを全国に向けて発信しようと、平成7年11月15日、「龍馬倶楽部」設立準備会を発足させ入会の呼びかけをはじめました。

本会は、坂本龍馬記念館の運営方針にある歴史的・教育的・文化交流的機能の促進を民間サイドからサポートし、坂本龍馬並びに坂本龍馬記念館を通じて会員相互の交流と英知を育むとともに、龍馬に関する情報の把握と発信、さらに後世の人材育成に資することが目的となろうかと思えます。



龍馬倶楽部についての記者発表（坂本龍馬記念館）

本年4月1日には、本会の目的とする趣旨にご賛同をいただき、ご入会をされた全国の龍馬ファンの皆様の手によって、盛大に「龍馬倶楽部」が設立できるよう、ご協力を賜りますようお願いよりお願い申し上げたいと思います。

## ■ 龍馬倶楽部の主な内容

- 会員証の提示で龍馬記念館への入館無料
- 龍馬記念館発行の「飛騰」郵送（年4回）
- 龍馬記念館で開催されるイベントや情報のお知らせ
- 龍馬に関連する様な企画イベントへの参加
- 会員のコミュニケーション
- その他、坂本龍馬に関する情報の交換やその精神を継承する事業などの開催

## ■ 入会方法

- 直接お申込みになる場合  
所定の入会申込み用紙にご記入の上、入会金と会費を添えて龍馬記念館に直接ご持参ください。
- 郵便振替でのお申込みの場合  
所定の入会申込み用紙または郵便はがきに必要事項をご記入の上、郵送又はFAXにて龍馬倶楽部事務局宛てお申込みいただき、こちらからお送りする所定の振替用紙にて入会金及び年会費をご送金下さい。

## ■ 会 費

- 入会金 500円
- 年会費 2,000円



龍馬倶楽部仮会員証の発行は、所定の方法でご入金を確認されてからとなりますのであらかじめご了承ください。  
尚、くわしくは事務局へお問い合わせ下さい。

## ■ 事務局

〒781-02  
高知市浦戸城山830  
高知県立坂本龍馬記念館内  
TEL 0888-41-0001  
FAX 0888-41-0015

## ■ 発 会

平成8年4月1日

『龍馬倶楽部』ご入会案内  
龍馬が大好きなあなた!! 会員募集中!!  
龍馬に関する様々な情報に興味を持つあなた!!  
龍馬を通していろんな人たちと知り合いたい、仲間になりたいあなた!!  
“龍馬倶楽部” へどうぞ。

## — 入 館 状 況 —

平成8・1・31現在（開館以来1538日）	
○総入館者数	592,248人
○最多入館 平成5・5・3	3,700人
○最少入館 “ 6・9・29（台風）	23人
○本年度最多入館 “ 7・5・4	2,618人
○本年度最少入館 “ 7・12・21	35人
○本年度1日平均入館者数	378人

## 五島 龍馬ゆかりの地にて

— 龍馬・海の軌跡展によせて —

— 宅 間 — 之

「船は波打ちぎわのナタ（鉦）瀬にたたきつけられ、長い二本のマストを山にさしかけるように倒れた。浦田運次郎ら4人はすばやくマストをつたって山に逃げた。しかし次の大波はマストを海側に引き倒した。この時残りの者は皆船とともに荒波の中に姿を消した」と、瀬渡し船の船長は、鉦輪を操りながら話してくれた。

五島灘の荒波に挑戦するかのように海に迫る岬の岩肌は、五島列島独特の黄褐色をあらわにして波を白く砕いている。慶應2年5月2日、亀山社中のワイル・ウエフ号遭難の地、長崎県五島「有川掛江ノ浜村ノ内潮合岬」である。今でも陸からの道はなく、人の訪れを拒み続けている岬である。岬の岩礁に砕ける白波は、激浪と苦闘しつつ散華した亀山社中の若人にも似て、痛恨の叫び耳に響く岬の光景である。

慶應2年4月28日、亀山社中の木造二本マスト風帆船ワイル・ウエフ号は、長州藩蒸気船ユニオン号に曳かれて長崎を出帆した。薩長連合成立による親善、船の新たな命名、また亀山社中練習の航海でもあった。

5月1日、東風は両船を激しく揺すりはじめ、果ては暴風雨となって船の南下を拒んだ。衝突を避けるため両船をつないだロープは切られた。風帆船ワイル・ウエフ号は激波と風にもまれ北へ流された。船将黒木小太郎は腰の大刀を海中に投じて神々に加護を祈ったが叶えられず、荒れる風波はワイル・ウエフ号を五島潮合岬の岩礁に砕いてしまった。

船遭難の知らせは村人によって有川代官近藤

七郎右エ門に、そして五島藩にも急報された。以来1ヶ月半にわたって、875人の村人と、船123艘、海士203人、羽差72人が動員され、生存者の看護、水死体者の収容、海中の積み荷の引き上げ、引き上げ物の薩摩への引き渡し作業などが行われた。いわゆる「潮合騒動」である。友住の遠見番役安永惣兵衛孟貞は『薩州御手船異国形帆前船難船之始末』に、また江碕作兵衛



は『薩州様帆前船之記』にこの経過を克明に書き残している。前書の原本が散逸したのは惜しまれるが、後書は「江碕文書」として今有川古文書解説教室で解説中と聞いた。

龍馬は遭難の悲報を鹿児島で受けた。後日、五島を訪ね溺死者の冥福を祈って碑文と資金を村役人に託し建碑を依頼して去ったという。いま江ノ浜共同墓地にある多くの墓石の中でただ一基、五島灘をみはるかして立つ墓石がある。刻まれた12人の溺死者名も歳月がその刻影を薄め、教育委員会はセメントの覆屋で覆った。しかし今は民家が海と墓石をさえぎり、墓石は潮騒と語るより術ないさまとなっている。人々も近くの「龍馬ゆかりの広場」までは来るが、墓石まで足をはこぶ者は少ないという。

昭和52年、祖父がワイル・ウエフ号の荷揚げ作業に携わったという田中康弘さんの家の屋根裏から、コモに巻かれた4メートルもある木材が発見された。日本産の木材ではない。樹種、

大きさからいっても遭難船ワイル・ウエフ号のものに相違なからう。ワイル・ウエフ号の鉦取り棒と推測されて島人たちは沸き、江ノ浜の竹村克安さんがもらい受けた。

全長は4メートルたらず、やや弓なりの反った自然木で、元部は、幅24センチ、長さ49センチ、厚さ12センチほどの柄（ホゾ）が細工されている。ワイル・ウエフ号の舵につながる柄穴にはめ込まれ、4メートルに近い自然木の重さに耐え得る十分な工作であろうか。また先端部には、結ばれたロープのズレや移動を防ぐためであろうか、幅3センチほどの溝が両側面に彫られている。この木材が舵といかにつながり、船の行く手を定めていたかを断定するだけの勇気も、また十分な知識もない。表面は限りなく白に近いピンクと表現できそうな樹色であり遭難から130年の時の経過を感じさせない。切り口は、木心から外にむかって、また表面には木目にそって鋭く走るヒビ割れが、硬質の材であ



ることを容易に理解させる。いずれにしても正確な実測図の作成と、産地及び樹種の同定、そして同時代、同型船設計図等による部位及び機能などの調査研究によって、より確かな歴史資料としてよみがえる日が待たれる。また、いま展示公開の場となっている所有者竹村氏の民宿の軒先は、五島灘から吹き寄せる潮風が日夜容赦なく舵棒に当たる。民宿を訪れる釣り人たちが龍馬ゆかりの資料と感動はしても、島の多くの人々や全国の龍馬ファンが、龍馬と語り歴史に触れる機会はそう多くは望めない。貴重な歴

史資料としてスポットライトをあびる場所の設定も火急のこの思いがする。

「龍馬は青年たちに大志を抱かせる人物だ。龍馬のような若い人達が集まり、日本の将来を談じ合う姿には感激する。いま私たちが贈ろうとしているワイル・ウエフ号の舵棒のオブジェがご縁となり、龍馬を通じて有川町の青年たちと高知との交流が深まり、新しい有川の町づくりに、青年たちのあつい思いと情熱的な行動を期待している」と有川町の中山倉光町長は語る。

有川町から届けられるワイル・ウエフ号の舵棒のオブジェは、坂本龍馬記念館に設置される。企画展「龍馬 海の軌跡展」にも花を添え、龍馬記念館ある限り、ここを訪れる全国の龍馬ファンに、龍馬ゆかりの地有川町潮合崎と、そこで展開された歴史の一コマを雄弁に語りつづけていくことであろう。

## 企画展

## 『龍馬 海の軌跡展』

— サスケハナからハマカゼまで —

平成8年3月20日（水）～5月31日（金）

坂本龍馬記念館に『夕顔丸』がお目見えします。縮尺22分の1で、龍馬の「船中八策」にかかわる船にふさわしい大きさです。龍馬を海に、世界に開眼させたのは、浦賀で見た黒船でした。昭和3年5月27日、銅像完成の日、駆逐艦『ハマカゼ』は、祝福の水兵たちを運んで桂浜沖に錨を下ろしました。

『サスケハナ』から『ハマカゼ』まで龍馬には多くの船との出会いがありました。日本の洗濯・世界の海援隊を目指す龍馬はそれぞれの船とどうかかわったか、船、時、事件を追いながら龍馬の海の軌跡をたどります。

## 山内家歴史資料について

高知県文化推進課 大崎博澄

山内家資料は、古文書、漆芸品、茶道具、絵画、武具など多岐にわたり、その総数は約三万点と推定されている膨大なものである。中でも大名家文書は、まとまって保存されているものとしては全国的にも数少ない例であり、貴重な歴史資料として、専門家の間でも非常に高い評価を受けている。

一昨年末、山内家の英断と、貴重な資料の散逸を防ぎ後世に伝えたいという高知県の意思が合致し、資料の大部分が高知県に寄贈または寄託されることとなった。

県ではこの資料を保存管理していくために、高知市の協力を頂いて昨年四月、財団法人土佐山内家宝物資料館を設立、当分の間、高知市鷹匠町の旧山内神社宝物資料館を借受け、資料の保存管理にあたっている。

昨年七月には、第一回目の寄贈として、重要文化財「長宗我部地検帳」、「備前長船兼光」など約一万点を頂戴し、土佐山内家宝物資料館、県立歴史民俗資料館、県立図書館等で展示あるいは研究者に公開をしている。

残る資料についても、山内家において順次整理が進められており、相当部分が段階的に寄贈される予定である。

また、昨年末には、寄託品の中から歴代将軍家からの発給文書である「御内書」、土佐出身で江戸時代の日本の天文学者川谷蘆山制作の「蒔絵渾天儀」、江戸期の風俗を伝える「藤並神社御神幸絵巻」など七百五十五点を購入した。

今回の購入品には、上述の山内家関連資料の外に、有名な「乙女宛の坂本龍馬書状」や、

「海援隊備後鞆津ニ於テ才谷梅太郎紀州高柳之助等応接筆記（いろは丸事件始末書）」が含まれている。

これらの資料は、坂本龍馬記念館での展示公開を念頭において、特に山内家に対し購入品目に加えて頂くよう要請したもので、山内家の御配慮に感謝している。

県としては、今後も、寄託資料の中から予算の範囲内で計画的に資料の購入をしていく方針である。

山内家の歴史資料については、昭和六十二年（1987年）度から平成元年度にかけて、高知県教育委員会が、文化庁、高知大学、県立図書館ほか県内外の広範な歴史研究者の協力を得て調査に入り、「土佐藩主山内家歴史資料目録」を作成し、その大要を明らかにしているが、この膨大な資料群の本格的な調査研究、全容の解明は、まだまだこれからである。

特に、一万八千点にのぼる藩政史料群である「長帳」などの貴重な資料の解明と公開が進めば、高知県のみならず日本の歴史研究の進展に大きな貢献をするだろうと期待されている。

このため、資料の全容解明に向け、スタッフや協力組織づくりといった体制づくりが急務である。

また、美術工芸品を含む山内家資料が広く県民の皆さんに公開活用されるような条件整備も欠かせない。

今後の課題は多いが、県民の皆さんの大きな期待がこめられている大事業であり、また、山内家のご厚意に報いるためにも、一步一步着実に取り組んでいきたい。

新版「案内図録」刊行

定価 1,500円

## 新資料の紹介

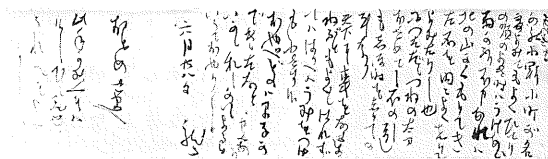
当館も開館後はや4年が経過し、この間皆様

の御協力により、次第に充実してきました。この度、文久3年6月28日付け姉乙女にあてた龍馬の手紙といろは丸衝突後の龍馬と紀州藩との応接記録を入手することができました。

この2点は、龍馬の人生哲学を知り、卓越した交渉能力を実感できる龍馬研究上第1級の史料と喜んでいきます。御尽力くださった関係の方々に厚くお礼申し上げます。

### ◆龍馬の手紙（文久3年6月28日付乙女宛）

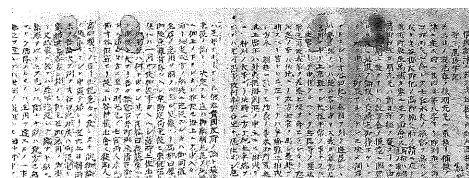
「天下に事をなすものハ ねぶともよくよくはれずてハ はりへほうみをつけもふさず候」と、時勢を見る目を誤らず、潮時を見極めて行動せよと「ねぶと論」を展開しています。



### ◆いろは丸事件始末書

慶応3年4月23日夜、海援隊が大洲藩からチャーターしたいろは丸で瀬戸内海を航行中、紀州藩船明光丸と衝突、沈没しました。

龍馬は紀州藩と折衝して7万両の賠償金を得ますが、その様子を記録したのがこの始末書です。誰の筆になるかは定かではありませんが、朱書を加え推敲の跡をとどめています。



備後鞆津ニ於テ才谷梅太郎紀州高柳之助等ト  
応接筆記（いろは丸事件始末書）

### ◆河田小龍画 鶴図

寄贈者 西内 淳氏

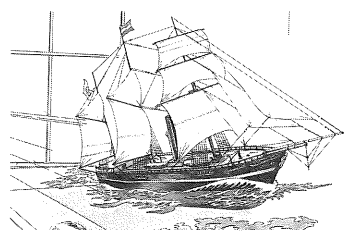
（香美郡野市町）

小龍は、土佐屈指の画家として有名ですが、漂流漁民中浜万次郎を取り調べ、漂異記略を著し、龍馬に海運の知識を植え付け、多大の影響を与えたと伝えられています。

### ◆夕顔丸（縮尺1/22）

龍馬ゆかりの船『夕顔丸』の模型です。全長は2590mm、全幅350mm、船底からマストの上までは1750mmの高さになります。船体は強化プラスチックと木の塗装仕上げです。木製マストには樹脂コート

の帆布がはられます。帆に一杯の風をうけ、波をけて走る動きのある夕顔丸で、B1の吹抜に常設展示されます。



### 題字「飛騰」について

文久元年（1861年）10月11日、龍馬は剣術修行のため、1か月の国暇を得て、讃岐丸亀の矢野市之丞の道場へ旅立った。この日、樋口真吉は、日記に「坂龍飛騰」と記した。

龍馬は更に国暇延長の許可をもらい、極秘裡に長州へ赴いた。彼は武市半平太の久坂玄瑞宛親書を携えていたのである。

長州萩に着いた龍馬は、久坂玄瑞を訪れて半平太の親書を手渡し、国事について会談する。

今まで一介の武芸者に過ぎなかった龍馬が、この旅を機に勤王の志士へと脱皮していくのである。矢野市之丞の所へ行った目的を予め知っていた樋口真吉は、龍馬への期待をこめて「坂龍飛騰」と記したのであろう。翌2年3月、龍馬は脱藩する。



## 拜啓 龍馬殿

- 龍馬 大きいね、桂浜ってすごく大きい。前来た時よりずっと大きく見える。今日の桂浜の波はおだやかだけれども時には荒々しくうちよせるのだろう。もしかしたら桂浜と龍馬はにているかもしれないなんてね。私が龍馬に出合ってからもう9年になる。今は龍馬たちの吐息がきこえてきそうな京都に住んでいる。まだ自分のすすんでいきたい道がはっきりきまってないけど、私、龍馬みたいに生きたいな。

(10月28日 京都市 M・N 女性)

- 1995年11月15日  
誕生日おめでとうございます。昨年は京都の墓前祭に行きました。来年は長崎かな…。高知旅行は4回目、毎年1回は来ていることになります。そのたびに誕生地と桂浜を訪れては長時間ボートとしています。来年もそうするでしょう。ではまた来年

(11月15日 名古屋市 T・M 女性)

- やっと高知に来ることができました。はずかしながら龍馬を知ったのは3年前、新入社員の時です。あの時の驚き、「こんなすごい人が日本にいたんだ!!」。当時私は日本が嫌いでした。だからどうにかして日本脱出をしようと考えている毎日でした。しかし、龍馬を知ってからというもの「日本も捨てたもんじゃない」と思うようになりました。そして今では日本をもっともっと知りたいとさえ思うまでになりました。まだまだ日本は奥が深すぎて私の小さなうみそには収まりきれませんが、日本を知っ

た後、今度は世界を見てみたいと思っています。日本脱出ではなく、世界進出です。どうか応援して下さいね。

(11月23日 東京都 A・M 女性)

- 前回4月の来訪に続き2度目になります。4月に撮った写真は、職場の壁にはっています。『龍馬がゆく』をはじめ読んでからもう5年。すでに6回も読み返し、あなたの足跡をたどる旅を続けています。ただ「偉かったひと」として憧れるのではなく、これからの人生の指針としてあなたをとらえたい。具体的には…「男のすなる維新といふもの、女もしてみむとてすなり。」といった感じでしょうか。

どこまで追いかけられるかは分かりませんが器の大きい人間をめざします。くじけたらまた来ますよ。

(11月25日 東京都 K・M 女性)

- JR西日本で新幹線運転士をしています。国鉄がJRになって8年半たちましたが、まだまだ「お役人」が会社を牛耳っております。また、労働組合はいくつもあり、まさに幕末そっくりです。私は、JR西日本を洗濯するのが神願です。龍馬先生を尊敬し、私は明治維新の現代版をやってみたいと思っております—略—

(12月17日 大阪市 O・K 男性)

館だより “飛騰” 第16号  
平成8年(1996)2月1日発行  
発行所 高知県立坂本龍馬記念館  
〒781-02 高知市浦戸城山830  
TEL (0888) 41-0001  
FAX (0888) 41-0015